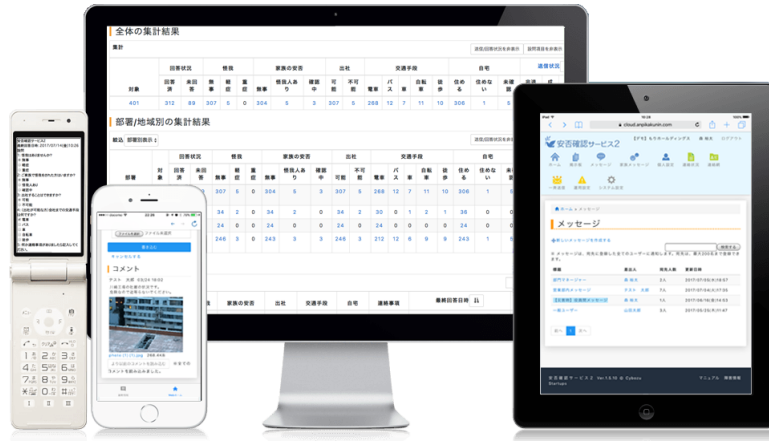


安否確認サービス2一斉訓練（2025年実施）



はじめに

平素は安否確認サービス2をご利用いただきありがとうございます。このレポートでは、2025年9月1日に実施された、一斉訓練の結果を報告いたします。全体の結果と自社の結果との比較の中で、自社はこういった位置付けなのか、自社の課題は何なのか、等をこちらのレポートからを見つけることができましたら幸いです。

概要

- 一斉訓練レポート
 - 各数値と御社の比較表
 - 御社の回答率の時間遷移と全体との比較
 - 回答時間の中央値と回答率の全体との比較
- 一斉訓練を終えて
- 巻末付録：用語説明

一斉訓練レポート

参加総数

一斉訓練参加企業数	2261社
総参加ユーザー数	892,734ユーザー

回答に関する統計値の全体平均との比較

	トヨクモ株式会社	全社平均
回答時間の最頻値	1.0分	12.7分
回答時間の25パーセンタイル	0.6分	19.1分
回答時間の中央値	7.7分	56.9分
回答時間の75パーセンタイル	61.5分	144.0分
回答率	73.1%	81.2%

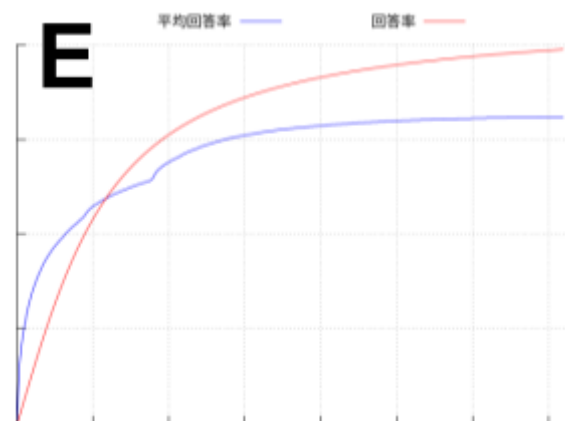
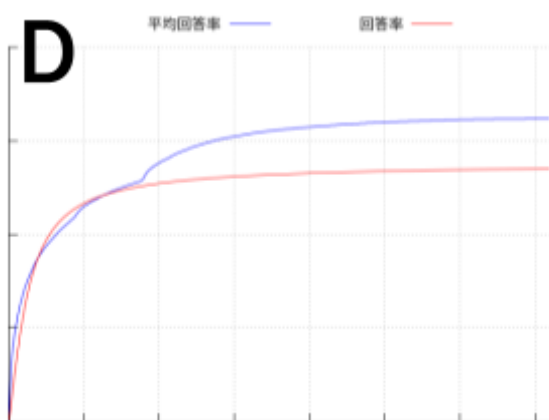
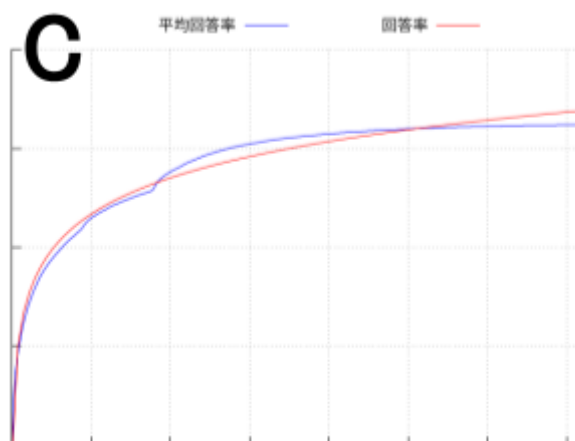
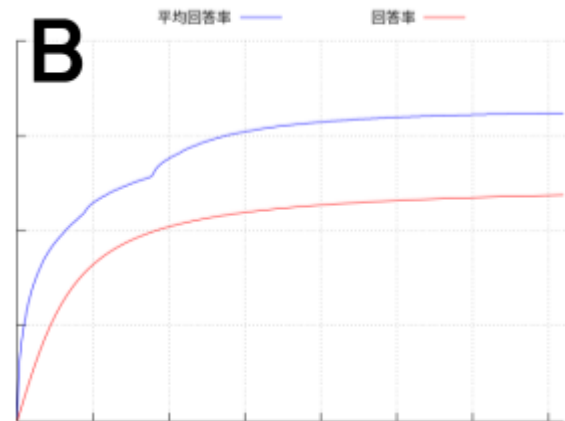
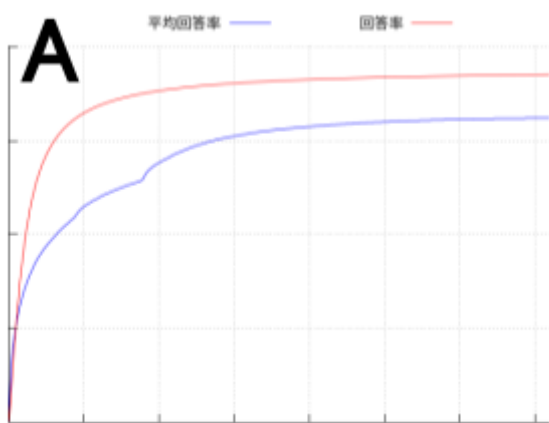
今回の参加企業の約80%は、回答時間の最頻値が4分以下に属します。このことから御社では、その他の参加企業と比べて、最も多くのユーザーが回答するのに時間がかからず対応ができていますと言えます。この調子で、素早い回答を継続しましょう。

回答時間の25パーセンタイル、50パーセンタイル(中央値)、75パーセンタイル、どれも全体の結果よりも早い数値が出ております。引き続き、早い回答ができるよう、訓練を行っていきましょう。

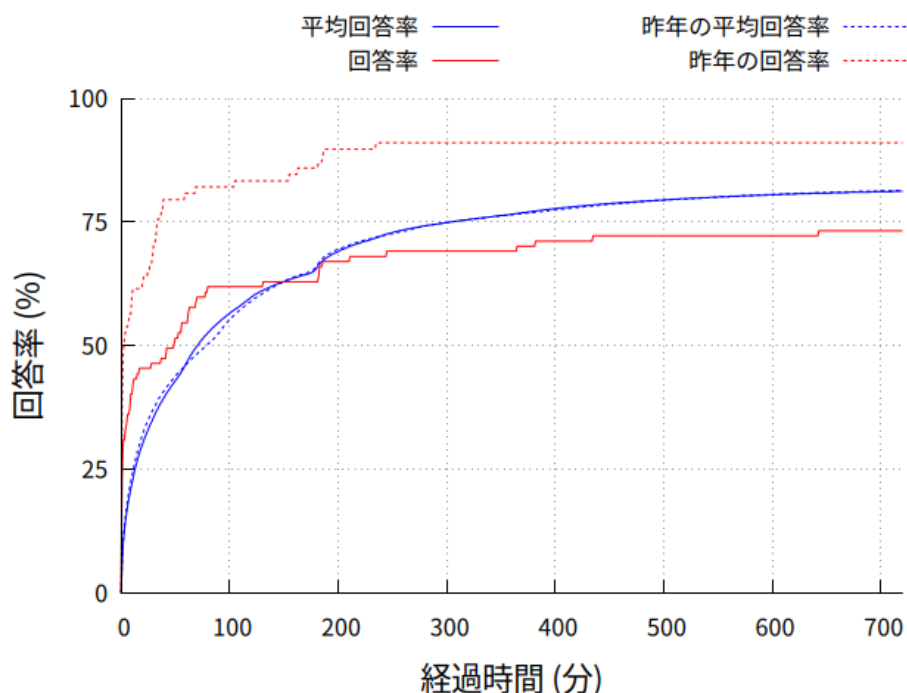
※9ページの巻末付録で、各種用語の解説をしております。必要があれば参照してください。

御社の回答率の時間遷移と全体との比較

下記A～Eから御社のグラフに近いグラフを探し、該当するコメントをご確認ください。



次の図は、送信時から12時間後までの平均回答率と御社の回答率の時間遷移図です。



■パターンA

回答率の時間遷移に関して、常に全体の結果よりも良い回答率が出ています。この状態を保てるようにしましょう。

■パターンB

回答率の時間遷移に関して、常に全体の結果よりも低い回答率が出ています。実際の緊急時に皆様の状況把握が遅くなる恐れがある他、その後の対策指示のための情報が集まらない可能性もあります。継続的に訓練を行い、回答率、回答時間ともに改善を行なっていきましょう。

■パターンC

回答率の時間遷移に関して、全体の結果と大きく変わらない数値が出ています。一斉送信の送信された直後の回答率は勢いよく上がっていきませんが、時間経過とともに、回答率の上昇がゆるやかになっています。一部の方だけでなく、全従業員が素早く回答できるよう、継続的に訓練を行なっていきましょう。

■パターンD

回答率の時間遷移に関して、一斉送信が送信された直後の回答率は全体の結果と比較しても、

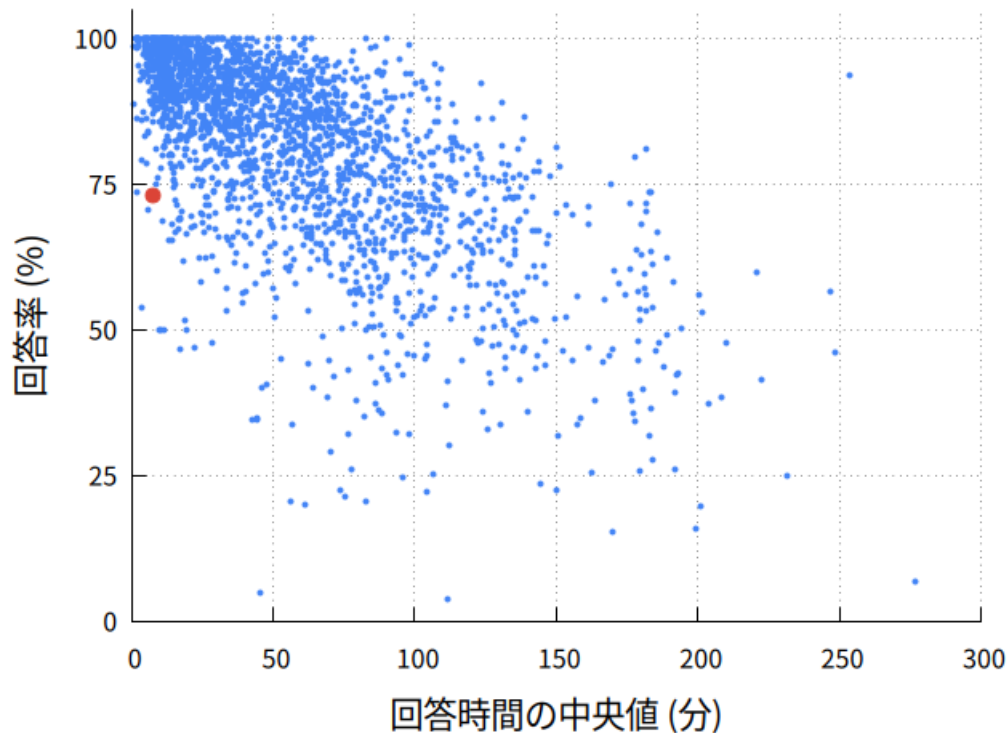
同等もしくは全体より良い速度で回答が集まっています。ですが、時間が経過すると回答率が全体よりも悪くなっていきます。一部の方だけでなく、全従業員が素早く回答できるよう、継続的に訓練を行なっていきましょう。

■パターンE

回答率の時間遷移に関して、一斉送信直後は回答が集まらず、素早い反応ができていないことが読み取れます。時間が経過するにしたがって、全体の結果を超えるほど回答速度が高まっています。最終的な回答率は高いので、通知には素早く反応できるよう訓練を行いましょう。

回答時間の中央値と回答率の全体との比較

次の図は、横軸が各社の回答時間の中央値、縦軸が各社の回答率である散布図です。回答率は一斉訓練開始から12時間後時点での回答率を示しています。なお、赤い点が御社を示しています



御社の回答率： 73.1%

回答率に関して、標準的な数値まで届いておりません。まだまだ改善の余地がありそうです。プライベート連絡先の登録を間違いなく行ない、訓練や啓蒙も行いましょう。プライベート連絡先の登録の有無は安否確認サービス2内の「連絡網」機能で確認できます。図上で上方向にシフトできるよう訓練を繰り返し行いましょう。

御社の回答時間の中央値： 7.7分

回答時間の中央値に関して、良い数値が出ています。これは、他の多くの企業より回答が早い状況を指します。御社内の多くの方が素早い回答を行う習慣ができているようです。今後も、緊急時に素早い回答を行うよう、定期的に訓練を行いましょう。

総評

全体の結果と比較すると回答率は低く、回答することが習慣づけられていると言えない状況です。ただ、回答された方のかかった時間は全体と比較し短い時間で対応ができています。

素早い回答が出来ているのが一部の従業員だけのようなので、全従業員に通知の確認、回答をするよう啓蒙・訓練を継続的行いましょう。「連絡網」機能でプライベート連絡先が登録されているか、エラーは出ていないか、等を継続的に確認することを推奨します。定期的に自動で連絡先エラーの有無を確認するための機能「連絡先の確認設定」は、「運用設定」内で設定が可能です。

参考情報

設問に対して回答いただいた内容の構成比率を下記に記載いたします。各社様の情報は「連絡状況」からご確認いただけますので、全体との差分をご確認いただきたい場合にご利用くださいませ。

■回答しているのはどなたですか？

99.09%	本人が回答
0.90%	代理が回答

■回答している機器は何ですか？

29.10%	パソコン
70.19%	スマートフォン
0.49%	フィーチャーフォン(ガラケー)
0.22%	その他の機器

■この通知は何で知りましたか？

76.20%	メール通知
12.85%	アプリ通知
4.58%	LINE通知
5.12%	上司や同僚から聞いた
1.26%	偶然見つけた

■回答方法はすぐに分かりましたか？

88.55%	すぐに分かった
6.48%	まあ、分かった
4.73%	わかるまで少し時間がかかった
0.24%	回答できているか分からない

■災害発生時も同様に回答ができそうですか？

95.90%	回答できそう
4.09%	回答できるか不安

一斉訓練を終えて

このたび第8回を迎えたトヨクモの全国一斉訓練には、過去最大となる89万名超の皆様にご参加いただきました。前回から25%以上の増加となり、年々規模を拡大し続けています。ご参加くださった全ての企業・団体の皆様、そして現場でご対応いただいた防災・総務ご担当者の皆様に、深く御礼申し上げます。

今回の訓練は、首都直下地震や南海トラフ地震といった社会や企業活動に甚大な影響を及ぼす大規模災害を想定する上で、極めて実践的な検証の機会となりました。アクセスが集中した時間帯においてもシステムは安定稼働し、処理能力に十分な余裕があることを確認できました。これは、安否確認サービス2が災害時においても安心してご利用いただける基盤であり、皆様の事業継続を確かに支えるものであることを改めて示せたと考えております。

安否確認サービス2は2011年12月の提供開始以来、すでに4,000を超える企業・団体に導入いただき、全国へと着実に普及してまいりました。今回の訓練規模の拡大も、その広がりを示すものです。

本レポートでは、全参加企業・団体の平均回答率や回答時間といったデータを提供しております。皆様には、自社の結果と照らし合わせることで、防災体制の現状を客観的に把握し、次の改善に向けた検討にぜひお役立ていただければ幸いです。

また、本訓練で特に優れた成果を収められた企業様を称える「Good安否確認賞」を、本年も10月に発表いたします。各社の工夫を凝らした取り組みは、防災体制の強化を進めるうえでの具体的なヒントとなるはずです。こうした成功事例の共有を通じて、防災意識を社会全体で高めていくことを期待しております。

トヨクモはこれからも、安否確認サービス2の提供を通じて、皆様の事業継続と従業員の安全を支える取り組みを進めてまいります。来年以降も引き続き、皆様と力を合わせ、より確かな備えを築いてまいりたいと考えております。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

トヨクモ株式会社

代表取締役社長

山本裕次

～巻末付録～

用語説明

解説対象の用語は以下の通りです。

- 最頻値
- パーセンタイル
 - 中央値

最頻値 (mode)

最頻値は、母集団の中で最も出現する頻度の高い値のことを指します。

一斉訓練では、貴社の送信開始からそれぞれのユーザーの最初の回答までの時間の秒を四捨五入した、分単位の最頻値を算出します。

御社の最頻値と全社平均を比較することで、もっとも多く回答があった回答時間を、全体と比較することができます。

パーセンタイル (percentile)

パーセンタイルは、あるデータの集合を、ある基準に沿って昇順に並べたときに、何%の順番にいる値が何であるかを示します。

例えば、あるテストの点数の集合が、
{10, 30, 70, 80, 99}
であった場合、50パーセンタイルは70点です。

また、50パーセンタイルのことを一般に**中央値**といいます。

一斉訓練では、送信開始からユーザーごとの最初の回答をするまでの時間の、

- 25パーセンタイル
- 中央値
- 75パーセンタイル

を、御社の送信対象者のうち、12時間以内に回答したユーザーを母集団として算出します。

全社平均と自社の値とを比較することで、

- 回答するまでの時間が全体と比較して早いのか遅いのか
- 回答するまでの時間の分布の偏りが大きいかどうか

などを分析することができます。

以上